

様式第5号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画													
1	教育実習等の内容及び成績評価等												
①	教育実習等の時期 〈教育実習〉 3回生 6月～10月												
②	教育実習等の実習期間・総時間数 〈教育実習〉 4週間・144時間												
③	実習校の確保の方法 本学附属学校園において、実習生受入枠と学生の希望を調整し、配属を決定する。												
④	実習内容 〈教育実習〉 <ul style="list-style-type: none"> * 実習校園でのオリエンテーションを通じて、学校経営方針、特色ある教育活動および運営組織体制を理解する。 * 配属された学級を中心に授業観察を行い生徒の実態、課題の理解を深める。 * 実習指導教諭の指導助言を得て、学習指導要領や生徒の実態を踏まえた学習指導案の作成と基礎的な学習指導技術、情報機器の活用方法を習得する。 * 授業以外の様々な活動で生徒と関わり、生徒の実態についての理解を深める。 * 学級担任、教科担任の補助活動を通じて様々な教員の職務について理解する。 * 教科指導担当授業時間は、4時間以上を原則とする。担当授業以外に担当学級以外の授業観察をする。 												
⑤	実習生に対する指導の方法 〈教育実習〉 実習期間中、実習生の所属専攻教員は実習校を訪問して、実習校指導教諭と協議し実習状況の把握を行い、必要に応じて実習生への指導にあたる。 教科指導担当授業の最終授業において、授業終了後の振り返りに所属専攻教員が出席し、実習校指導教諭とともに指導にあたる。												
⑥	実習の成績評価（評価の基準及び方法） 〈教育実習〉 実地教育運営委員会において、教育実習校からの評価報告書を参考に事前事後指導を含めた総合評価を行う。評価項目表は別添のとおり。												
2	事前及び事後の指導の内容等												
①	時期及び時間数 〈教育実習〉 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">事前指導</td> <td style="padding-left: 20px;">2回生</td> <td style="padding-left: 20px;">3月（4時間）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 20px;">3回生</td> <td style="padding-left: 20px;">4月（4時間）、5月（4時間）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">事後指導</td> <td style="padding-left: 20px;">3回生</td> <td style="padding-left: 20px;">10月（4時間）</td> <td style="text-align: right;">合計16時間</td> </tr> </table>	事前指導	2回生	3月（4時間）			3回生	4月（4時間）、5月（4時間）		事後指導	3回生	10月（4時間）	合計16時間
事前指導	2回生	3月（4時間）											
	3回生	4月（4時間）、5月（4時間）											
事後指導	3回生	10月（4時間）	合計16時間										

② 内容（具体的な指導項目）

〈教育実習〉

事前指導

*教育実習の心得、目的について（2時間）

教育実習の心得、目的を確認するとともに、実習生としての立場及び教員としての立場を理解し、実習に向けての見通しを持つ。

*教育実習についての心構えについて（2時間）

前年度に教育実習を履修した学生（2名～3名程度）から実習での体験を踏まえた説明を受け、実習への意欲を高めるとともに具体的な準備事項について見通しをもつ。

*教育実習に向けての準備について（4時間）

教育実習振り返りシート、修了（公開又は研究）授業及び教育実習の評価、実習生の1日の動きや実習校での指導について説明を受け、実習に向けての準備を確認する。

*実習配属校園の概要（2時間）

実習配属校園の基本的事項と教育活動の特色等、実習配属校園における教育実習について基本的事項と実習の進め方等について理解を深める。

*子ども理解に基づく教育実践（2時間）

校種（発達段階）に応じた子ども理解と学習指導・学級指導等の場での子どもとの関わり方について、実習配属校園の具体的事例を基に理解を深める。

事後指導

*教育実践の研究（2時間）

教職の専門性を高めるために、教育実習を経験して到達した視点から、教育実習を振り返り、経験した事例を取り上げながら考えを深め、今後の自身の目指す姿を見据えて、指定のテーマ毎に成果と課題を確認する。

*教育実習の振り返り（2時間）

「教育実践の研究」で討論した内容を発表し、他学級や異校種の現状を知るとともに、各自の課題を明らかにし、教育実習の経験を今後どのように生かしていくか考える。

③ 教育実習等におけるハラスメントの防止等に関する学生への指導（相談窓口の周知を含む）及び学内の相談体制等について

すべての学生および教職員が個人として尊重され、就業、就学、教育および研究のための環境が維持されることを目的として「国立大学法人京都教育大学ハラスメント防止等に関する規程」を定め、学びやすい学習環境作りに努めている。セクシャル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントの相談窓口として、学内にハラスメント防止委員会を設置し、相談員による相談体制をとっている。相談窓口は学内のHPに掲載しており、教育実習については、事前指導の時間にハラスメント防止に関する説明を行うとともに、学生の所属専攻毎に実地教育専攻連絡会議委員を配置し、当該委員を通じての相談体制も整えている。

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

〈教育実習〉

- ・委員会等の名称 実地教育運営委員会
- ・委員会等の構成員（役職・人数など）

* 実地教育運営委員会

副学長（教務・学生指導担当）

附属学校部長

教授会から選出された教員（6名）

教職キャリア高度化センターから選出された教員（4名）

計 12名で構成

実地教育運営委員会に次の連絡会議を設置する。

* 専攻連絡会議

実地教育運営委員会委員＋専攻選出教員（13名） 計25名

* 附属連絡会議

実地教育運営委員会委員＋各附属学校園選出教員（14名） 計26名

- ・委員会等の運営方法

* 実地教育運営委員会

定例会議（月1回・年12回）と必要に応じて臨時会議を開催する。

教育実習、事前事後指導および介護等体験にかかる年間計画の立案・実施及び教育実習の成績評価のほか、教育実習評価基準や標準学習指導案などについて審議する。

* 専攻連絡会議

定例会議（5、12、3月・年3回）

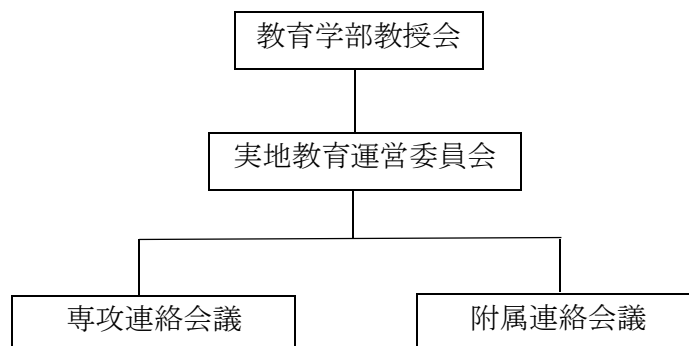
教育実習、介護等体験を行う学生指導にかかる協議を行う。

* 附属連絡会議

定例会議（4・12月・年2回）

教育実習の実施運営にかかる協議を行う。

【委員会の組織図】



② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

〈教育実習〉

- ・ 委員会等の名称 実地教育運営委員会
- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）

＊実地教育運営委員会

副学長（教務・学生指導担当）

附属学校部長

教授会から選出された教員（6名）

教職キャリア高度化センターから選出された教員（4名）

計 12名で構成

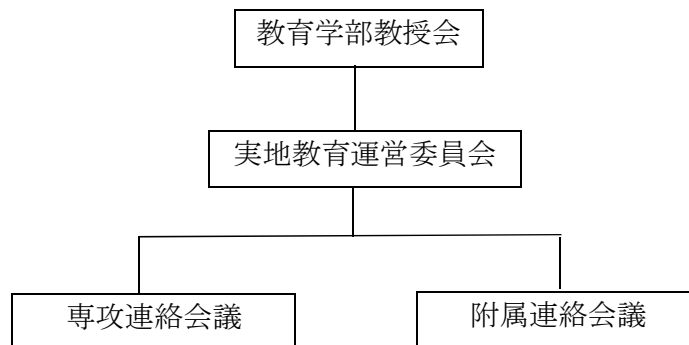
- ・ 委員会等の運営方法

＊実地教育運営委員会

定例会議（月1回・年12回）と必要に応じて臨時会議を開催する。

教育実習、事前事後指導および介護等体験にかかる年間計画の立案・実施及び教育実習の成績評価のほか、教育実習評価基準や標準学習指導案などについて審議する。

【委員会の組織図】



4 教育実習の受講資格

2回生終了時までには附属学校参加実習を履修し、以下の4科目6単位を含み66単位以上修得済みであること。

KYOKYO スタートアップセミナー、専攻基礎セミナー、日本国憲法、数理・データサイエンス・AI

5 実習校			
教育 実習	体験 活動	学級数の合計	中学校 1 1 学級、義務教育学校 1 2 学級、高等学校 1 2 学級
○	×	学校名	附属桃山中学校 京都府京都市伏見区桃山井伊掃部東町 16 番地 学級数：1 1 学級 生徒数：3 6 6 名
		教員数	2 4 名 (内訳) 副校長 1 名、主幹教諭 1 名、教諭 2 1 名、養護教諭 1 名
○	×	学校名	附属京都小中学校 京都府京都市北区小山南大野町 1 番地 学級数：1 2 学級 生徒数：2 8 9 名
		教員数	2 3 名 (内訳) 副校長 1 名、主幹教諭 1 名、教諭 2 0 名、養護教諭 1 名
○	×	学校名	附属高等学校 京都府京都市伏見区深草越後屋敷町 111 番地 学級数：1 2 学級 生徒数 4 4 5 名
		教員数	3 3 名 (内訳) 副校長 1 名、主幹教諭 1 名、教諭 3 0 名、養護教諭 1 名

教育実習評価表（小学校・中学校・義務教育学校）

年 月 日

京都教育大学

実習校名	学 校 長 氏 名 公印			実習指導教員氏名	実習教科
専攻	回生	学籍番号	実習生氏名	学級指導教員氏名	配属学級
「専攻」	「回生」	「学籍番号」	「カナシメイ」 「氏名」		
出 席 の 記 録					
実習期間			要出席日数	病欠	遅刻
年 月 日 () ~			出席日数	事故欠	早退
年 月 日 ()			欠席日数	備考	

領域	項目	到達目標	評価の観点	評価欄	点数
学習指導	1	<授業の設計> 学習内容や学習指導法についての基本的事項(知識や技能)を身につけ、授業の設計ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科目標や内容の理解 実態をふまえた指導目標や内容の設定 教材研究にもとづいた授業準備(資料・教具・機器の準備)と板書計画 反応予想にもとづいた発問と展開計画 		
	2	<授業の実施> 実際の授業において教材・教具を活用するとともに、個々の学習者に配慮できる。	<ul style="list-style-type: none"> 明確な指示や効果的な発問 音声や言語(言葉使い)の明瞭さと正確さ 明瞭で正確な文字と効果的な板書 受容的な姿勢による子どもたちの反応への適切な応答 資料・教具・機器等の効果的な活用 授業中および授業後の適切な評価活動 		
	3	<授業の評価> 自己の授業実践を改善する方法を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する内省(成果と課題) 評価活動を生かした適切な支援 		
生活指導	1	<個の理解> 児童・生徒を理解し指導するための基本的事項(知識や技能)が身についている。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の理解と適切な対応 学級内での交友関係の把握 子どもの状況の具体的な記録(実習日誌) 		
	2	<集団の理解> 集団の特徴をとらえるための基本的事項(知識や技能)が身についている。	<ul style="list-style-type: none"> 学級集団の把握 子どもに対する適切な対応 		
	3	<個と集団を高める働きかけ> 児童・生徒へ積極的に関わり、場面や状況に応じて、児童・生徒に適切な指導・支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な関わりと人間関係に対する適切なサポート 学級活動に対する自主的な参加と適切な指導 観察に基づく指導方法の理解 		
実習勤務・教員資質	1	<勤務・実務能力> 社会人としてのマナーやルールと実習生としての心得を遵守し、勤務内容や指示に沿った実習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としてのマナー(規範意識) 出勤の状況(無断欠勤、遅刻等) 指導案・実習日誌等提出物の提出状況 		
	2	<向上心> よりよい教員をめざして努力する意欲を培うと共に、実践を通して学ぶ力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む姿勢 成果と課題の把握と自己の向上 省察を通じた授業力や指導力の改善 		
	3	<教育への関心と教職への自覚> 教育への広い関心を持つとともに、教員としての自覚を持って行動する。	<ul style="list-style-type: none"> 教員としての態度や言動 ふれあいや対話による個々の理解 やる気やおもいを大切に共感的な関わり 		
	4	<社会性・対人関係能力> 指導教員等の助言・指導を適確に理解し、他の実習生と協力しあいながらよりよい実習となるよう行動する。	<ul style="list-style-type: none"> 他の実習生との協働的な取り組み 指導や助言の的確な理解と、コミュニケーションをとりながらの取り組み 教職員や子どもたちとの信頼関係の構築 		

(観点別評価)

- S : 3点 (十分満足できる高いレベル)
- A : 2点 (ほぼ満足できるレベル)
- B : 1点 (最低限のレベル)
- C : 0点 (Bに満たない、理由は裏面に記載)

総合評価	秀・優・良・可・不可	点数合計	
------	------------	------	--

専攻	回生	学籍番号	実習生氏名
《専攻》	《回生》	《学籍番号》	《カナシメイ》 《氏名》

◎「Bに満たない。」評価となった理由について、以下の記載欄に該当する領域・項目別にご記入ください。

領域	項目	到達目標	「Bに満たない。」評価となった理由
学習指導	1	＜授業の設計＞ 学習内容や学習指導法についての基本的事項(知識や技能)を身につけ、授業の設計ができる。	
	2	＜授業の実施＞ 実際の授業において教材・教具を活用するとともに、個々の学習者に配慮できる。	
	3	＜授業の評価＞ 自己の授業実践を改善する方法を身につけている。	
生活指導	1	＜個の理解＞ 児童・生徒を理解し指導するための基本的事項(知識や技能)が身につけている。	
	2	＜集団の理解＞ 集団の特徴をとらえるための基本的事項(知識や技能)が身につけている。	
	3	＜個と集団を高める働きかけ＞ 児童・生徒へ積極的に関わり、場面や状況に応じて、児童・生徒に適切な指導・支援を行う。	
実習勤務・教員資質	1	＜勤務・実務能力＞ 社会人としてのマナーやルールと実習生としての心得を遵守し、勤務の内容や指示に沿った実習を行う。	
	2	＜向上心＞ よりよい教員をめざして努力する意欲を培うと共に、実践を通して学ぶ力を身につける。	
	3	＜教育への関心と教職への自覚＞ 教育への広い関心を持つとともに、教員としての自覚を持って行動する。	
	4	＜社会性・対人関係能力＞ 指導教員等の助言・指導を適確に理解し、他の実習生と協力しあいながらよりよい実習となるよう行動する。	

◎10項目の合計得点が12点以下となる場合は、改善を要する点、B評価がなく25点以上になる場合は、特に優れた点をご記入ください。

特記事項	
------	--

教育実習評価表（高等学校）

年 月 日

京都教育大学

実習校名	学 校 長 氏 名 公印			実習指導教員氏名	実習教科
附属高等学校					
専攻	回 生	学 籍 番 号	実 習 生 氏 名	学級指導教員氏名	配属学級
《専攻》	《回生》	《学籍番号》	《カナシメイ》 《氏名》		
出 席 の 記 録					
実 習 期 間		要 出 席 日 数	病 欠	遅 刻	
年 月 日 () ~ 年 月 日 ()		出 席 日 数	事 故 欠	早 退	
		欠 席 日 数	備 考		

領域	項目	到達目標	評価の観点	評価欄	点数
学習指導	1	<専門的知識> 教科内容について基本的事項などの理解と技能の習得ができています。	・教科内容について基本的事項・発展的事項の理解。 ・教科内容について自らの不足するものを補う努力。 ・授業内容について身につけている知識の授業における適切な活用。		
	2	<授業の設計> 学習内容や学習指導法についての基本的事項(知識や技能)を身につけ、授業の設計ができる。	・教材観・指導観・生徒観・目標と評価・展開計画・板書計画など各項目が適切に記述された指導案の作成。 ・基本的・発展的な教科内容を踏まえた学習計画の立案。 ・適切な授業方法の検討と、授業の設計。 ・生徒の実態把握と、それに応じた指導計画や方策の立案。		
	3	<授業の実施> 実際の授業において教材・教具を活用するとともに、個々の学習者に配慮できる。	・学習指導案にもとづいて適切な教材・教具の選定と、授業への活用。 ・板書や、発話の工夫などの、授業改善の積極的な試み。 ・適切な生徒観察をもとにした、生徒への対応。		
	4	<授業の評価> 自己の授業実践を改善する方法を身につけている。	・授業改善に向けた適切な授業評価。 ・授業評価をもとにした授業改善の方策の立案。		
生徒指導	1	<個の理解> 生徒を理解し指導するための基本的事項(知識や技能)が身につけている。	・個々の生徒の様子の観察と、授業やHR活動等において、個々の生徒への積極的な関与。 ・個々の生徒の様子の分析と、HR観察レポートや実習日誌、指導案の生徒観などへの適切な記述。 ・個々の生徒の様子を、授業の構築や実際の授業への活用。		
	2	<集団の理解> 集団の特徴をとらえるための基本的事項(知識や技能)が身につけている。	・生徒への積極的なかわりと、適切な生徒集団の理解。 ・学級やその他生徒集団の状況をHR観察レポートや実習日誌、指導案の生徒観などへの適切な記述。 ・観察した学級や生徒集団の様子を、授業の構築や実際の授業への活用。		
実習勤務・教員資質	1	<勤務・実務能力> 社会人としてのマナーやルールと実習生としての心得を遵守し、勤務の内容や指示に沿った実習を行う。	・社会人としての自覚・マナーやルールを守る規範意識。 ・サービスに対する基本的な心得、ならびに仕事に対する責任感と積極性。 ・指導案や届け出書類等の提出物の期日の遵守。		
	2	<向上心> よりよい教員をめざして努力する意欲を培うと共に、実践を通して学ぶ力を身につける。	・教員のあるべき姿や、自己の教師像を考え、それに向けて努力する姿勢。 ・教科の内容や生徒指導について、自ら見つけた課題を実践を通して克服しようとする力。 ・実習に対する真摯な態度を表現する力。		
	3	<教育への関心と教職への自覚> 教育への広い関心を持つとともに、教員としての自覚を持って行動する。	・授業や生徒との関わりを通じて、教育の抱える問題点や可能性を考察する力。 ・実習生として生徒に対してとるべき態度の自覚と、言葉遣いや対応のしかたなどけじめある行動の実践。		
	4	<社会性・対人関係能力> 指導教員等の助言・指導を適確に理解し、他の実習生と協力しあいながらよりよい実習となるよう行動する。	・指導教員の助言や指導の内容を十分理解し、次の行動や授業に活かしたり、生活や研究の態度を改める姿勢。 ・教材研究や与えられた仕事などを、他の実習生と協力してこなす態度		

(観点別評価)

- S : 3点 (十分満足できる高いレベル)
- A : 2点 (ほぼ満足できるレベル)
- B : 1点 (最低限のレベル)
- C : 0点 (Bに満たない、理由は裏面に記載)

総合評価	秀・優・良・可・不可	点数合計	
------	------------	------	--

専攻	回生	学籍番号	実習生氏名
《専攻》	《回生》	《学籍番号》	《カナシメイ》 《氏名》

◎「Bに満たない。」評価となった理由について、以下の記載欄に該当する領域・項目別にご記入ください。

領域	項目	到達目標	「Bに満たない。」評価となった理由
学習指導	1	＜専門的知識＞ 教科内容について基本的事項などの理解と技能の習得ができています。	
	2	＜授業の設計＞ 学習内容や学習指導法についての基本的事項（知識や技能）を身につけ、授業の設計ができる。	
	3	＜授業の実施＞ 実際の授業において教材・教具を活用するとともに、個々の学習者に配慮できる。	
	4	＜授業の評価＞ 自己の授業実践を改善する方法を身につけている。	
生徒指導	1	＜個の理解＞ 児童・生徒を理解し指導するための基本的事項（知識や技能）が身につけている。	
	2	＜集団の理解＞ 集団の特徴をとらえるための基本的事項（知識や技能）が身につけている。	
実習勤務・教員資質	1	＜勤務・実務能力＞ 社会人としてのマナーやルールと実習生としての心得を遵守し、勤務の内容や指示に沿った実習を行う。	
	2	＜向上心＞ よりよい教員をめざして努力する意欲を培うと共に、実践を通して学ぶ力を身につける。	
	3	＜教育への関心と教職への自覚＞ 教育への広い関心を持つとともに、教員としての自覚を持って行動する。	
	4	＜社会性・対人関係能力＞ 指導教員等の助言・指導を適確に理解し、他の実習生と協力しあいながらよりよい実習となるよう行動する。	

◎10項目の合計得点が12点以下となる場合は、改善を要する点、B評価がなく25点以上になる場合は、特に優れた点をご記入ください。

特記事項	
------	--

教育実習生受入承諾書

令和7年2月28日

京都教育大学長 殿

京都教育大学附属桃山中学校長

石川 誠

京都教育大学に在籍する学生のための教育実習校となることについては、差し支えありません。

教育実習生受入承諾書

令和7年2月28日

京都教育大学長 殿

京都教育大学附属京都小中学校長
湯川 夏子

京都教育大学に在籍する学生のための教育実習校となることについては、差し支えありません。

教育実習生受入承諾書

令和7年2月28日

京都教育大学長 殿

京都教育大学附属高等学校長

西本 有逸

京都教育大学に在籍する学生のための教育実習校となることについては、差し支えありません。